

## 「チュラロンコーン大学 サマースクールプログラム 参加報告書」

京都大学法学部・学部4年 米山奈緒子

- ① タイの大学生は非常に熱心に勉強をしているということがよくわかりました。同じ大学生として、日本で卒業を半年後に控えています。この3年半を振り返って恥ずかしく思うと同時になんでもったいない過ごし方をしたのかと思います。今回交流した学生の方々は主に日本語専攻の方々でしたが、日本語が大好きで、本当に日本語が上手でした。私も、大学でこれを学んだ!と言えるものを一つは作っておくべきだったと思っています。

もう一つ学んだことは、それぞれの国に、それぞれの良さがあるということです。何度か海外に行ったことがありましたが、自分で選ぶと、どうしてもきれいなイメージのあるヨーロッパや北米になっていました。しかし今回、こうしてタイに行く機会をいただき、西洋とは違った良さを知りました(詳しくは②)。話だけではなかなか分からないというのは本当だと思うと同時に、グローバル化が進んでいる現在、正確にそれぞれの国のことを知るには、やはり実体験が一番だと感じました。

- ② 今回のタイでの滞在は私にとって初めての東南アジアでの滞在中で、同じアジア圏にありながら、やはり日本とは大きな差があるということがわかりました。東南アジアの中では進んでいるはずのタイですが、交通規則は滅茶苦茶で、中心部から少し外れると衛生面もあまりよくなく、日本の住環境は非常に恵まれたものなのだと実感しました。

しかしそんな環境よりも、もう一度タイに来たい、と思わせるものがありました。それは、タイ人の人柄の良さです。タイの人にはどんな事や人も受け入れてくれる懐の深さがあると思います。店員さんはたどたどしい、発音もままならない、単語だけをいくつか並べる私たちのタイ語を真剣に聞いて、笑顔で接してくれ、時には正しい言葉や発音を教えてくださいました。大学では、私たちのことを思って1日中観光地を案内してくれたり、一緒にプレゼンテーションをしたらそのあとご飯を食べたりお土産を買うのに付き合ってくれ、さらにお土産までくれたりと、ほんの少し関わっただけでも非常に深い関係を築くことができた友達がたくさんいます。本当に親切でおおらか、温かい国でした。こんな素晴らしい国に行けて本当に良かったです。

- ③ 授業・観光・自由時間それぞれがバランスよくあり、とても充実した2週間を過ごすことができたと感じています。最も印象に残っている授業は、タイの学生10人の班に日本人1人を入れていただき一緒にプレゼンテーションをしたことです。日本にいる間から事前準備をしたり、現地に着いたら初対面の方の中に入って話し合いをしたり、難しいこともたくさんありましたが、このような機会は学校プログラムでしかできないものだと思います。普段タイの方がどのような授業を受けているのか、どのようなことを考えているのかを直接感じられる機会でした。また、プレゼンテーションについて先生からは非常に厳しいご指摘をいただきましたが、それも良い思い出です。短期間の滞在にもかかわらず「生徒」として受け入れてくださったことに感謝すると同時に、日本ではあまりプレゼンテーションをする機会がない私にとっては、今後非常に役立つご指摘であったと思っています。

- ④ 半年後の卒業が決定しているため、半年以上の交換留学に行くことはもうできません。しかし、なぜ今までもっと英語を勉強し交換留学に行かなかったのか、それが心残りです。

今までも留学に興味はあったのですが、どうしても半年以上という長期で留学に行く決心をすることができずに今まで来てしまいました。しかし、今回タイでお世話になった日本語選考の学生達は、日本への留学に非常に積極的で、自分の学んでいる言語について、「分からなかったら恥ずかしい」とかそんなネガティブな意識ではなく、「少しでも喋りたい!」という非常にポジティブな姿勢を持ってとても気持ち良かったです。できるできないではなく、「やりたい!喋りたい!」という意識の方が大切だと実感しました。

長期留学にはもう行けないですが、学生生活あと半年、英語の授業やプログラムには積極的に参加して英語力アップを図りたいと思っています。